

情報リテラシー教育の理念と方法 －実践のための論点整理－

平成21年度国立大学図書館協会
地区協会助成事業(四国中国地区)
情報リテラシー教育担当者研修
2010年1月21日(広島大学)
野末 俊比古(青山学院大学)

はじめに

講演の趣旨・構成

- 講演の趣旨(目的)
- 講演の構成(流れ)

講演の要点(主張)

- 情報リテラシー教育は「楽しい」
- 「楽しく」進めることが大事
- 「使えるものは使う」姿勢を

I 実践に先だって (「そもそも論」の整理・確認)

情報リテラシーとは？

- 定義するならば「情報を主体的に
使いこなす能力」
- コミュニティによって「中身」に違い
- 「問題解決能力」の中核に位置づけ
- 「図書館リテラシー」も(重要な)要素

情報リテラシー教育とは？

- 利用者の情報リテラシーの習得・向上・維持を支援する意図的な活動
- 図書館が行う情報リテラシー教育
＝図書館利用教育(指導サービス)
- 大学図書館は「学習支援」「教育支援」の機能を発揮

「サービス」「教育」の基盤

- マネジメントサイクルを踏まえて……
「計画(Plan)」→「実行(Do)」→
「評価(Check)」→「改善(Action)」
- 教育学(教職・教育実践)基礎に基づいて
……インストラクショナルデザイン
- 図書館員の「経験」も大切

JLAガイドラインによる手順

- (1) 理念の確認 → (2) 組織の確立 →
- (3) 現状分析 → (4) 目的・目標の設定 →
- (5) 方法・手段の設定 → (6) 財政の確立 →
- (7) 担当者の採用・研修 →
- (8) 施設設備・教材・広報手段の提供 →
- (9) 協力体制の確立 → (10) 評価の定着化

理念(目的・使命)の確認 (「(1) 理念の確認」にあたって)

- めざすのは「自立した情報利用者
(学び方を学んでいる)」
- そのために「図書館ならではの」
「図書館だからこそ」の部分を担当
- 大学教育における図書館の役割

Ⅱ とにかく利用者を知る (「(3) 現状分析」にあたって)

学習者(利用者)を理解する(学生の場合)

- 「卒業生」像……パンフ、進路データ、…
- カリキュラム(授業)……シラバス、課題、
教科書、…
- ※学問ごとの作法
- 「平成生まれ」の実態……情報要求、
行動様式、…
- ※高校までの「情報教育」

情報利用行動の理解・分析

- 情報資源の多様化……Google、GeNii、…
- 探索行動の意義……ブラウジング、チェイニング、モニタリング、…
- 検索(探索)機能・様式の変化……「キーワード!?!」、「AND・OR・NOT!?!」、出力の順序・項目、…

利用者の「気持ち」を考えながら

- 行動(技能・操作) + 思考(認知) + 心理(感情・情意)
- 「感情」の自覚・予測……文章化、…
- 「不安」の軽減……用語の工夫、人的支援のPR、…
- 「楽しさ(興味)」や「お得感」の喚起・演出、…

利用者のセグメント化

- 「ニーズ」によるグルーピング(多層的)
- プロファイルの作成など
- 学生以外も重要な対象
- ※ 「ニーズ」と「ディマンズ」
「顕在的(自覚)」と「潜在的(無自覚)」

Ⅲ 目的を達成するために

(「(4) 目的・目標の設定」「(5) 方法・手段の設定」にあたって)

何を教えるのか

- 情報探索・利用のモデル……ステップごとの知識・技能 + メタ認知 + ……
- 利用者を「主語」にした記述……いわゆるコンピテンシー(ルーブリック)
- ACRLやJLAのガイドラインなども参考

ガイドラインの「目標」

- 第一領域は「印象づけ」……「認識」
- 第二領域は「サービス案内」……「理解」
- 第三～五領域が「情報探索・整理・表現法」……「理解」して「習得」する

具体化の手順

- 全体構想……「入学(前)」から「卒業(後)」まで
- 系統表(カリキュラム)……指導事項を体系化(らせん型)
- 年間計画(プログラム)……種々の指導機会(授業とも連動)
- 指導案(シナリオ)

指導の方法・手段は多彩

- 直接(対面)＋間接(遠隔)
- 集団(集合)＋個人(個別)
- ツール(メディア)の活用……パスファインダ、マニュアル、ポスター、…
- 日常業務のなかで……OPAC画面、返却票(しおり)、館報、…

授業との連携・協力・分担

- 関連なし……図書館独自の講習会など
 - 学科関連指導……授業に出向いて
 - 学科統合指導……授業の計画から
 - 独立科目……情報リテラシー科目など
- ※初年次教育、出前(出張)講座、FD/SD、…

Ⅳ プレゼンテーションに臨んで

「シナリオ」を練る

- 組立て……「導入・展開・まとめ」、「SDS(要約・詳細・まとめ)」、「PREP(結論・理由・具体例・まとめ)」、…
- ※ 例題……「身近」「驚き」「ご利益」…
- ※ いわゆるPBL的な手法も
- シナリオ(台本・進行表)……時間配分、セリフ、…
- リハーサル……フィードバック、…

教材づくりにあたって

- 説明・作業などと一体で……「どう使うのか」(頭、目、耳、手)
- 教材は「過不足なく」……必要十分な量・質
- 特に心理面にも工夫……例えばキャラクター

パワーポイントの場合

- 読みやすさ……大きさ、フォント、配色、分量、書きぶり、...
- ※ 例えば「赤い文字」の意味
- 箇条書きなら5~7項目
- ※ 見本は「ワイドショーの芸能情報」!?
- 配置・アニメーションは「効果・意図」を明確に

ハンドアウト(レジュメ)の場合

- 読みやすさが基本……字数・行数、配置、...
- 順序・構成(階層)は明確に……大きさ、フォント、字下げ、記号、...
- 指示のしやすさ、記入のしやすさ(空欄、余白)にも配慮
- 配付のタイミングも考慮

プレゼン(話法)において

- 「基本」は大切……前(聞き手)を見て、大きな声で、はっきりと(ゆっくりと)、...
- 変化(メリハリ)をつける……「強弱」、「速遅」、「堅柔」、...
- 聞き手(動作・思考・感情)にあわせて……例えば「沈黙」も必要
- 小道具や身振り・手振りも

V しっかり評価をする

(「(10) 評価の定着化」にあたって)

何を評価するのか

- 評価の対象は「過程」と「結果(成果)」
- 「目標(指標)」「基準」「過去」などに照らして
- 指標には「インプット」「アウトプット」「アウトカム」
- 実は計画段階が大事……マーケティング(ターゲティング)、...

どう評価するのか

- 方法・手段は色々……質問紙、聞き取り、電子メール、テスト、統計・記録、...
- 「定量的」(数量的) + 「定性的(質的)」……ポートフォリオ、自由記述、...
- 「発見的」方法も
- 大切なのは「解釈(価値判断)」

次の展開につなげる

- 次の計画などに反映……段階的、選択的に、...
- できるところから……即時、短期的、中長期的、...
- PDCAサイクルは多層的・多重的……短い／長い、個人／組織、...

おわりに

講演の主張(再掲)

- 情報リテラシー教育は「楽しい」
- 「楽しく」進めることが大事
- 「使えるものは使う」姿勢を

さらに考えたいこと

- 情報リテラシー教育の成果を發揮できる図書館
- 情報リテラシー教育の不要な図書館!?
- ノウハウ・教材などの「共有」
- 大学・社会における図書館のアイデンティティと図書館員の専門性

ありがとうございました

ご意見、ご質問、ご批判を
いつでもお待ちしております
(後日の場合はメールやファクスで)